

実世界と仮想世界など（1）

年の始めで、一般的なコンピュータの話から少し(だいたいな)はなれた話から始めてみようと思います。以前、映画の「マトリックス」について書いたことがあります。その後も同じような仮想世界と実世界の絡み合った映画もいろいろつくられています。現在公開中の「バニラスカイ」も契約により凍結保存された体を未来で再生させ、その間に仮想現実をオプションで体験できるというものです。これらの映画の場合の仮想現実とは、コンピュータの中に作り出した世界で、ヘッドキャップなどで脳と接続することによってその中に入っていくものです。その世界はコンピュータに支配され、マトリックスの場合は、いわゆる「ハッカー」がコンピュータに侵入するのと同じようにその世界に侵入するようになっています。これらのものは映画でつくられたものですが、この前連載していた「ユビキタス」の場合にも、コンピュータネットワークが身近になることによって仮想世界が構築され、その世界と実世界の融合が図られてくるようになっていきます。この場合の仮想世界は、インターネット上のコミュニティや、ショッピングモールであり、映画のように現実にその世界の中に入っていくとするものではありません。しかし、実世界と仮想世界とのかかわりは今後どうなっていくのでしょうか。

インターネットなどの仮想世界の中にコミュニティを構築したりできるということは、商店街や銀行、会社までも存在させることが可能で、製造以外の取引のほとんどをネット上で行うことが可能となります。これまで考えられていたSOHOがどちらかといえば本来1ヶ所で行う仕事を分散し、居住環境の近くにサテライトオフィスを作ってそこで仕事をしようとするもので、できればまとめて仕事をするものを一部分散して行おうとするものでした。それに対して、究極のインターネット上の会社は、会社の社屋自体がなく、全くインターネット上でのつながりのみによって会社を構成しようとするものです。それぞれのサイトがそれぞれの会社であり、1つのシステムを構築するのに、その条件によってその技術を持ったものが集合することによって行います。例えば、インターネット上に1つのシステムを構築しようとする場合、ネット上の掲示板にシステムを構築するモジュールの仕様を公開します。それに対して応募する形でシステム構築に参画することとなります。システムの完成は、募集したものの判断となりますが、この方法であれば、その対象は全世界にまで広げることができ、短時間で性能の高いものが構築できる可能性があります。このような完全なインターネット上の会社は今後発生してくる可能性はありますが、これまでも、ソフトウェア開発を全世界で分散して行うことによって、例えば、日本、インド、ヨーロッパ、アメリカと世界を一蹴させることによって効率的にシステム構築はされてきました。しかし、このような会社形態は完全な実力主義ですから、若い発想力豊かな人がもっとも有利となり、これまで管理職となっていた人たちにとっては対応が困難となる可能性があります。もちろんこれまでの会社組織で存在した経理、福祉などについては、それぞれの機能のみを行う会社がインターネット上に存在すれば対処することができます。

今回は、インターネットを含めた仮想世界を初めのキーワードとして、これからの世界について私見を一度書いてみたかったので、連載してみようと考えています。これからの情報化社会は気づかないうちにすぐ身近にまで迫ってきています。便利な様でもあり、怖い面も含んでいるような気がします。(次回へ続く)

(情報誌トピックス)

○日経エレクトロニクス 1月14日号

特集 ARM、強者の法則

→組み込み用CPUのトップメーカーはイギリスARM。互換CPUとの裁判にも、「強者の論理」で実質上勝利しシェアは8割に迫っている。その躍進のきっかけはNokiaの携帯電話への採用。MIPSや日立のSHにも大きく水を開け、パソコンのIntelと同じような位置をしめている。

解説 PS2の第2幕が開く ブロードバンドで独走へ

→PS2はクリスマス商戦でも好調で、全世界で2300万台を出荷し、Xboxやゲームキューブをはるかに上回る。第2幕はブロードバンド業者と提携し、ハードディスクを内蔵したPS2で、ゲームだけでなく音楽や映像などの配信が始まる。

○日経オープンシステム 1月号

特集 データを“生かす”システム構築術

→これまでの企業のシステムはコスト削減が中心であった。これからは、企業内に蓄積されたデータを生かすことで価値を生むシステムが求められている。これまでのシステム構築方法とは違う。キーワードは「大量データ」と「利用率向上」。

解説 54Mbps無線LANは導入すべきか

→IEEE802.11aに準拠した5GHz帯を使った54Mbpsの無線LANの製品が出荷されている。まだ高価で、屋外で使用できない、障害物に弱いなどの点もあるが、価格が下がれば導入効果は高い。

○日経ネットビジネス 1月10/25日号

特集 “BBながら族”を狙え!

→ブロードバンドが、テレビを見ながら、電話をしながらの“BBながら族”を生み出す。このブロードバンド時代の消費者を理解しネットビジネスを対応させる必要がある。